# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH

信仰と行いの関係

2011年 2 5

「霊とまこととをもって礼拝」「答えられた疑問」(VIII)「ピーナッツバタークッキー」「親切な隣人となる」

## 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

今月の聖書勉強

「信仰と行いの関係」

神のみかたちを回復する

4

朝のマナ

「霊とまこととをもって礼拝」

10

現代の直理

「答えられた疑問」(VIII)

39

印する働き

力を得るための食事

「ピーナッツバタークッキー」

44

お話コーナー

「親切な隣人となる」

46

#### 数会

#### 【正丸教会

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1 電話: 0494-22-0465

#### 【高知集会所

〒 780-8015 高知市百石町 1-17-2 電話: 0887-58-3263

#### 【油縄生会所

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

#### アクセス

ホームページ:http://www.4angels.jp メール:support@4angels.jp

発行日 2011年1月31日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション 〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト: dreamstime.com p. 1, 2, 45; Sermonview p.10

#### 思いに神のみ言葉の尊い約束を蓄えなさい

もし主が、善的にご自分により頼もうとする働き人の群れをもっておられるな ら、このお方は彼らを通して、大いなる働きを成し遂げることがおできになる。 一人が千人を追い、二人が万人を追うことができるのである。主は、力強い助 け手であられる。 もしわたしたちがこのお方に信頼するならば、 わたしたちは休 息と平安を持つようになる。魂の言葉は、喜びと感謝の言葉になる。もしわた したちが自分の経験に暗い章を持っているなら、それを繰り返すことによって 記憶を新たにしないようにしよう。 後ろのものを忘れて、 前にあるものに向かっ て押し進もう。 もしあなたが中傷されたことがあるなら、 それを忘れなさい。 そ してただイエスの大いなる憐れみ、愛する優しさ、表現できないほどの愛をだ けを考えなさい。非難するよりも讃美することを学びなさい。もしあなたが侮 辱や不当な扱いにあっても、落胆してはならない。なぜなら、イエスも同じよう にあわれたからである。自分の働きを忠実になし、前進しなさい。思いに神の み言葉の尊い約束を蓄えなさい。そしてしばしばそれらを繰り返すことによって、 このお方とのうるわしい交わりを持ちなさい。いらだつのをやめて、つぶやくの をやめて、あらさがしをやめて、あなたの心の中に神への旋律を奏でなさい。 あなたが感謝しなければならないをみな考えて、それから神を賛美することを 学びなさい。「感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる」。

もしわたしたちのすべての嘆き、いらだち、つぶやきが記録の書に記されている通りにわたしたちの前に提示されたら、どのような光景を見ることになろう! わたしたちは自分たちの本当の思想と感情―ただみじめなつぶやきしかないこと ―を見て、理解し、どれほど驚くことであろう。

わたしは、あなたに一言のつぶやきの言葉も口にしないようにとお願いする。 あなたの経験という縦糸と横糸に感謝の黄金の糸を織り込みなさい。涙が決し て流されることなく、誘惑も試練も経験することがなく、損失も非難も決して 知ることがなく、すべてが平安と喜びと幸福である良き地を熟考しなさい。こ こでは、あなたの想像力を最大限に用いることができる。これらの思想は、あ なたをより霊的な思いを持つ者とし、あなたに天の活力を吹き込み、あなたの 渇いた魂を生きた水で満たし、あなたの心に神のみかたちの印を押してくれる。 あなたは信じることに希望と喜びで満たされる。そして慰め主は、永遠にあな たと共に住まわれるのである(サインズ・オプ・ザ・タイムズ1883年9月27日)

## 信仰と行いの関係

ネーピア、ニュージーランドにて 1893 年 4 月 9 日

#### A・T・ジョーンズ兄弟へ

わたしは集会に出席し、大人数の会衆が出席していた。わたしの夢の中で、あなたは、信仰と信仰によるキリストの着せられる義という主題を提示していた。あなたは行いには何の意味もない、条件は何もないと、数回くり返した。人々の思いが混乱させられ、信仰と行いに関して正しい印象を受けないとわたしにわかるような光の中でこの問題が提示されたため、あなたに手紙を書こうと決心した。あなたはこの問題をあまりにも強調しすぎる。わたしたちが義認と聖化、そしてキリストの義を受けるには条件がある。あなたがどのような意味で話しているか、わたしにはわかるが、多くの人々の思いに誤った印象を残している。良い行いが一人として魂を救うことはないが、それでも良い行いなしに一人として救われることはあり得ない。神はわたしたちを律法の下に救われる。であるから、わたしたちは受けるために求め、見出すために探し、自分たちに戸を開いていただくために、たたかなければならない。

キリストはご自分の許に来るすべての人をきわみまで救うために自発的にご自身を差し出しておられる。このお方はご自分の許に来るように、すべての人を招いておられる。「わたしに来る者を決して拒みはしない」(ヨハネ6:37)。実際にはこれらの主題について、あなたはわたしと同じように見ているが、あなたは自分の表現によって、これらの主題を人々の思いに対して混乱させている。そしてあなたは行いに関して自分の思いを極端に表現した後で、まさにこの主題について質問されると、あなた自身の思いの中でそれが十分はっきりと整理されていないために、他の人々の思いに正しい原則を定義づけることができない。そしてあなた自身、自分の言葉を自分自身の原則と信仰に調和させることができないのである。

若い青年が、質問をもってイエスの許へ来た、「よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか」(マルコ 10:17)。イエスは彼に言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい」。彼は言った、「どのいましめですか」。イエスはいくつかを引用なさり、この青年はイエスに言った、「それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょう」。イエスは彼に言われた、「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。ここに条件がある。聖書は、条件に満ちている。「この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである」(マタイ 19:17, 20, 21, 22)。

#### 注意すべき点

であるから、あなたが条件は何もないと言うとき、そして非常に広い表現 がなされるとき、あなたは人々の思いを悩ませ、ある人々はあなたの表現の うちに一貫性を認めることができない。彼らはどのようにしてこれらの表現を、 |率直な神のみ言葉の記述に調和させたらよいかがわからないのである。これ らの点を注意しなさい。行いに関するこれらの強い断定は、決してわたした ちの立場を強めることにはならない。この表現はわたしたちの立場を弱める。 なぜなら、あなたを極端論者だと思うようになる人々が多くあり、彼らは知る 必要のある主題そのものに関してあなたが彼らのためにもっている豊かな教 訓を失うことになるからである。……わが兄弟よ、人の思いがこの点を把握 するのは困難なのである。であるから、どの人の思いをもみ言葉と調和しな い考えで混乱させてはならない。キリストの教えの下で、弟子たちの多くは嘆 かわしいほど無知であったということを考えてみなさい。しかし、イエスの約 東された聖霊が彼らに臨み、揺れ動くペテロが信仰の勇者とされたとき、彼 の品性にはなんという変化が起こったことであろう!しかし、行き過ぎた発表 や表現によって、信仰に弱い魂がつまずくような小石を一つもおいてはなら ない。常に一貫し、静かで、深く、堅固でありなさい。何においても極端に なることなく、あなたの足を堅固な岩の上に置きなさい。ああ、尊い、尊い 救い主。「わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する

者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう」(ヨハネ 14:21)。

キリストのみ言葉を行うこと―これこそ真のテストである。そしてそれが人間のキリストへの愛の証拠であり、このお方のみ旨を行う人が、服従と、純潔と、品性の聖潔のうちにあらわす実の実際的な証拠を世に与えるのである。......

ああ、わが兄弟よ、神と共に気をつけて歩みなさい。しかし、あなたが 地境を越え、つまずいて、倒れるのを見ようと、あなたに目を留めている人々 がいることを覚えていなさい。しかし、あなたが謙遜のうちにイエスのそばに い続けるならば、万事良しである。……

キリストの学校には、卒業する地点がない。わたしたちは足し算の計画で働かなくてはならない。そして、主はかけ算の計画で働かれる。わたしたちがキリストの恵みを通して、足し算の計画で生き、召しと選びを確かなものとするのは、絶え間ない勤勉さを通してである。……「そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。こうして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの永遠の国に入る恵みが、あなたがたに豊かに与えられるからである」(ペテロ第二1:10,11)。一手紙44,1893年

#### 罪との妥協はない

わたしたちの兄弟たちは、人々の思いが混乱させられないように、信仰と行いの主題を人々の前にいかに提示するか、非常に気をつけなさい。人々は、良い行いに勤勉になるよう、強く勧められる必要がある。彼らはその捧げ物が神のみ前に芳しいものとなるように、いかに成功するか、いかに精錬されるかを示してもらうべきである。それはキリストの血の徳によってである。断固とした性質のメッセージが民に伝えられなければならない。人々はあらゆる形式の悪をたしなめ、譴責しつつ、出ていかなければならない。

もしどの教会の御使にでも、エペソ教会の御使に与えられたような任務が 与えられるなら、民が悔い改めと罪の告白へと導かれることができるように、 メッセージが、人の代理人たちの間に不注意と背信と罪を譴責するのが聞か れるようにしなさい。決して罪を覆おうと努めてはならない。なぜなら、譴責 のメッセージのうちに、キリストが最初であり最後であり、魂にとってすべて のすべてであられるお方として、宣布されなければならないからである。

このお方の力は勝利したい人々の要求を待っている。譴責する者は、聞く者たちが克服しようと奮闘するよう、活気づけるべきである。彼は彼らがすべての罪深い行いから救い出されるために奮闘し、すべての堕落した習慣から自由になることを、たとえその自己否定が体から右の目を取り出し、あるいは右の手を切り離すようであっても、奨励すべきである。悪習慣や罪深い行いに対して、譲歩や妥協はあってはならない。(原稿 26a, 1892 年)

#### 神との協力

人は、神が与えてくださった自分の能力に従ってすべての力を用いて、神 と協力しなければならない。飲食において、またあらゆる生活習慣において、 何が正しい行いであるか無知であってはならない。主はご自分の人間の代理 人が、理性的で、あらゆる面において責任ある存在として行動するよう意図 しておられる。……

わたしたちは神が与えてくださった光の一すじでさえもなおざりにすることはできない。勤勉さを要求するこれらの事柄の実行において怠惰であることは、罪を犯すことである。人間の代理人は、神と協力すべきであり、征服されているべきこれらの感情は抑制すべきである。こうするためには、彼らは神への祈りにおいてうむことなく、つねに自分の精神、気質、行動を支配するための恵みを得ていなければならない。キリストの与えられる義を通して、彼は克服することができる。勝利者になるということは、多くの人が思う以上の意味がある。

神の御霊は、すべての悔いた心の叫びに答えてくださる。なぜなら、悔い 改めは神の賜物であり、キリストが魂をご自分に引き寄せておられる証拠だ からである。わたしたちはキリストなしに許されることがないのと同様に、キ リストなしには悔い改めることができない。それでいながら、自分の感情と 誇りをもった人間にとって、まっすぐにイエスのところへ行き、自分に必要な もののすべてを求めて、このお方を信じ、また信頼することは、屈辱なので ある。……

だれ一人として、人は偉大な勝利の働きにおいてなすべきことがほとんど、 あるいは全然ないという考えを提示しないようにしなさい。なぜなら、神は 人間の協力なしには、何も人のためになさらないからである。また、あなたが自分の側でできることをすべてなした後に、イエスがあなたを助けてくださると言ってもならない。キリストは「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」と言われた(ヨハネ15:5)。初めから終りまで、人は神と共に働く共労者でなければならない。聖霊が人間の心に働いてくださらないかぎり、わたしたちは一歩ごとにつまずき、たおれてしまう。人間の努力だけでは、何の価値もなく無に等しい。しかし、キリストとの協力は勝利を意味する。自分自身では、わたしたちは罪を悔い改める力はない。わたしたちが神の助けを受けないかぎり、わたしたちは救い主に向かって第一歩を踏み出すことができない。このお方はすべての魂の救いにおいて、「わたしは、アルパでありオメガである。初めであり終りである」と言われる(黙示録21:6)。

しかし、キリストがすべてであられるにもかかわらず、わたしたちはすべての人にうむことのない勤勉さを鼓舞すべきである。わたしたちは、狡猾な敵によって打ち負かされることがないように、奮闘し、格闘し、身を悩まし、見張り、祈らなければならない。わたしたちがこのようにすることのできる力と恵みは神からもたらされる。そして、終始、わたしたちはご自分によって神に来るすべての人をきわみまで救うことのできるこのお方に信頼すべきである。人の側になすべきことはほとんど、あるいは全くないという印象を、決して人の思いに残してはならない。かえって、勝利することにおいて成功できるよう、人に神と協力することを教えなさい。

だれ一人としてあなたの行いは神のみ前のあなたの地位や立場と関係がないと言わせてはならない。さばきの時には、なされたことやなされずにおかれたことに従って宣告が下されるのである(マタイ25:34~40)。

努力と働きが、神の恵みを受ける者の側で要求されている。なぜなら、木の性質をあらわすのは、実だからである。人の良い行いは、カインの捧げ物と全く同様に、信仰がなくては何の価値もないが、キリストの功績に覆われていれば、それらはそれをした人に永遠の命を受け継ぐ価値があることを証する。世の中において道徳だと思われていることは、神の標準に達せず、また天の前にはカインの捧げものと同様に全く功績がない。(原稿 26a, 1892 年)

#### 聖霊に屈服している間

クリスチャンになるということが何を意味するかを自覚するすべての人は、 弱め、汚すすべてのものから自分自身を精錬する。彼の生涯のあらゆる習慣が 真理のみ言葉の要求と調和するようになり、彼は、自分自身の救いを信 じるだけでなく、聖霊の形づくる働きに服し、恐れおののいて、救いの達成 に努める。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888 年 3 月 6 日)

#### イエスはわたしたちの意図をお受け入れになる

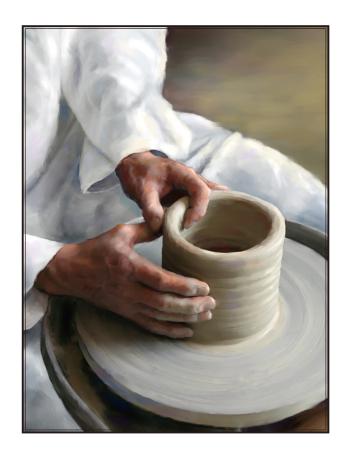
心の中で神に従うとき、この目的に向かって努力するとき、イエスはこの意向と努力を人間の最高の奉仕として受け入れ、足りないところをご自分の神の功績で埋め合わせてくださる。しかし、このお方はご自分を信じると主張しながら、このお方の御父の戒めに不忠実である人々をお受け入れにはならない。わたしたちは信仰について非常に多く聞くが、行いについてもっと多く聞く必要がある。多くの人々が、のんきで人当たりが良く、十字架のない宗教を生きることによって、自らの魂を欺いている。しかし、イエスは、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と言われる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1890年6月16日)

#### 引用参考文献

60章 セレクテット・メッセージ 1巻 377~382

## 神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



2月 「霊とまこととをもって礼拝」

## 反逆と誇りを捨てる

「神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである。」(ヨハネ 4:24)

自己愛と利己的な野望は狭い門を通り、細く上に向かう道を歩むことはできない。最終的な清算の日には、神が一人びとりを名によって知っておられたことがわかるようになる。人生の一つ一つの行動に対して目に見えない証人がいる。「わたしはあなたのわざを知っている」と「七つの金の燭台の間を歩く」お方が仰せになる(黙示録 2:2,1)。どのような機会が軽視されてきたか、良い羊飼いであられるお方が曲がった道でさ迷っている者を探し出し、彼らを安全で平安な道に連れ戻すためになされた努力はどれほどたゆまないものであったかが知らされる。神は何度も何度も快楽を愛する者に呼びかけ、彼らが自分たちの危険を知り、逃れることができるように、何度も何度もみ言葉の光を彼らの道に投げかけてくださった。しかし、彼らはますます、あたかも広い道を旅するようにふざけたり、冗談を言ったりしながら進んでいき、ついには自分たちの猶予の期間が終わってしまうのである。神の道は公正であり平等である。だから欠けていることが見出された者に宣告が下されるとき、どの口も閉じる。……

あなたが永遠の事柄に正しい評価をするとき、金持ちや学識のある者の 友情や評価があなたに感化力を及ぼすことはない。どのような形であれおの ずと現われる誇りは、もはやあなたの心のうちに生きることはない。(教会へ の証 5 巻 435)

なされるべき大いなる働きがある。心は忠実に探られなければならない。さ もなければ、誇りと反逆がその内で支配するようになる。外の悪が内にある悪を 目覚めさせる。そして魂は、自分自身の造った霧の中でさ迷いながら、いつも自 分のクリスチャンらしくない一連の行為の結果を他の人のせいにするのである。

生ける御言がわたしたちの内に豊かに宿らなければならない。さもなければ、わたしたちは決して自分の心のうちで主なる神をあがめることができない。わたしたちは御言によって生きなければならない。そして、自分が神を愛しているのか、それとも自分のうぬぼれに夢中になっているのかを知るために、綿密に自分自身を吟味しながら、自己を制御しなければならない。恵みによって抑制されていない心はみな裏切るものであり、滅びへと導く。(レピュー・アンド・ヘラルド1900年5月1日)

## 捧げものにおける態度

「アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。日がたって、カインは地の産物を持ってきて、主に供え物とした。アベルもまた、その群れのういごと肥えたものとを持ってきた。主はアベルとその供え物とを顧みられた。しかしカインとその供え物とは顧みられなかった。」(創世記 4:2 ~ 5)

〔犠牲の捧げものには〕大きく分けて二つの部類があった。アベルは祭司として自分の捧げものを厳粛な信仰のうちに捧げた。カインは自分の地の実を捧げたいと思ったが、自分の捧げものに獣の血を結びつけることを拒んだ。彼の心は獣の血を捧げることによって、罪の悔い改めと救い主を信じる信仰を示すことを拒み、贖い主の必要を認めることを拒んだ。彼の高慢な心にとってこれは依存であり、屈辱であった。

しかしアベルは未来の贖い主を信じる信仰によってカインよりもより受け入れられる犠牲を神に捧げた。彼が獣の血を捧げたことは、自分が罪人であり洗い流すべき罪が自分にあることを表明し、自分が悔い改め、未来の大いなる捧げものの血の功績を信じていることを表明した。サタンは不信仰、つぶやき、反抗の親である。彼は疑いと、罪を犯していない兄弟と神への激怒でカインを満たした。なぜなら彼の犠牲は拒まれ、アベルの犠牲は受け入れられたからである。……

犠牲の捧げものは、捧げられることになっていた大いなる捧げもの、すなわち獣の血で予表されていた捧げものを通して与えられる神の許しについて、人に対する永続的な誓約となるように制定された。この儀式によって人は来るべき贖い主への悔い改め、従順、信仰を表した。カインの捧げものを神に対する侮辱としたのは、神のお定めになった儀式に対する服従と従順の欠如であった。彼は単に地の産物を神に捧げるという自分自身の計画の方が高尚であり、他への依存を示し、ひいては自分自身の弱さと罪深さを表明する獣の血の捧げものほど屈辱的ではないと考えた。カインは贖罪の血を軽んじた。(レビュー・アンド・ヘラルド 1874 年 3 月 3 日)

#### カインの精神を避ける

「カインは弟アベルに言った、『さあ、野原へ行こう』。彼らが野にいたとき、カインは弟アベルに立ちかかって、これを殺した。」(創世記 4:8)

不法がはびこるので多くの者の愛は冷える。キリスト再臨の信仰を失って いる者が多くいる。彼らは世のために生きており、「主人の帰りがおそい」と 心の中で言っており、そう願いつつ仲間の僕を打ちたたいている。彼らはカ インがアベルを殺したのと同じ理由のゆえにこれを行う。アベルは神が与え ておられた指示に従って神を礼拝する決心をしていた。これがカインを不快 にした。彼は自分自身の計画が最高であり、主は妥協して彼の条件を受け入 れると考えた。カインは自分の捧げものの中にキリストへの依存を認めなか った。自分の父親アダムはエデンから追い出されることで厳しく取り扱われて いると考えた。思いの前にその罪を常に保つという考え、自分の外にある権 威への完全な依存の告白である、殺された小羊の血を捧げることは、カイン の誇り高い精神にとって拷問であった。長子として、彼はアベルが自分の模 範に従うべきであると考えた。聖なる火が犠牲を完全に焼き尽くしてアベル の捧げものが神に受け入れられたとき、カインの怒りは非常に大きくなった。 主は彼に事態を説明するためにへりくだられたが、彼は神と和解しようとせず、 神がアベルに好意を示されたので彼を憎んだ。彼は非常に怒って自分の弟 を殺した。

主は、自分たちの不信仰と疑いによって、自分の主人の帰りがおそいと言ってきたすべての人々、そしてその僕仲間を打ちたたき、酒飲み仲間と食べたり飲んだりしている(彼らとまさに同じ原則で働いている)すべての者と争われる。彼らは酔っている、しかし酒のゆえではない、よろめく、しかし濃き酒のゆえではない。……

人が神から離れ、それにより彼の心は聖霊の支配する力の下にいなくなる や否や、サタンの属性が現れ、自分の仲間を圧迫しはじめる。(牧師への証 77,78)

## わたしの兄弟の番人はだれか

「主はカインに言われて、『弟アベルは、どこにいますか』。カインは答えた、『知りません。わたしが弟の番人でしょうか』。」(創世記 4:9)

貪欲と利己心を伴った世的な精神が、多くの者を支配している。それを 持っている者は自分自身の特別な関心を見張っている。利己的な金持ちは、 いかに隣人の不利を自分が有利に用いることができるかを研究するためでな いかぎり、隣人の事柄に関心を示さない。人のうちにある気高さと神に似た ものは利己的な関心のために手放され、犠牲にされている。金銭への愛着 はすべての悪の根源である。それは視力を盲目にし、人を神と隣人に対する 自分の義務を識別するのを妨げる。

ある者は、自分たちがときおり牧師のために、また真理の前進のために 進んで寄付をするので、自分は気前が良いとうぬぼれているが、これらのい わゆる気前の良い人々は、取引においてきめが細かく、だし抜く準備ができ ている。彼らはこの世のものを豊富に持っており、これは彼らを神の管理人 として大きな責任に結びつける。しかしながら、貧しい勤勉に働く兄弟との 取引のとき、彼らは一円にいたるまで厳密である。取引の貧しい側が、貧し い人の遺産である。貧しい兄弟に好意を示す代わりに、鋭敏で厳密な金持 ちはすべてを有利に用いて、すでに蓄えている富を他人の不運によって増し 加える。彼は自分の利口さを自慢するが、自分の富をもって自らの上に重い のろいを積み上げ、自分の兄弟の道につまずきの石を置いているのである。

真実で気高く私心のない善意を、金持ちの中に見出すことは非常にまれである。彼らは富への野望の中で、人類の当然の要求を見落とす。彼らは、おそらく自分たちと同じくらい一生懸命働いてきた貧困のうちにいる自分たちの兄弟の窮乏の好ましくない立場を認めることも感じることもできない。彼らは、カインのように「わたしは兄弟の番人でしょうか」「わたしは自分が持っているもののために一生懸命働きました。それを手放すわけにはいきません」と言う。「兄弟の悲哀を感じるよう助けてください」と祈る代わりに、彼らの絶えざる研究課題は、兄弟がもっている悲哀や、自分たちの同情や惜しみない心に対する要求を忘れることである。(教会への証1巻 479,480)

#### カインでなくキリストの方法を選ぶ

「わたしたちは互に愛し合うべきである。これが、あなたがたの初めから聞いていたおとずれである。カインのようになってはいけない。彼は悪しき者から出て、その兄弟を殺したのである。なぜ兄弟を殺したのか。彼のわざが悪く、その兄弟のわざは正しかったからである。」(ヨハネ第一3:11,12)

カインの精神、すなわち同胞を告発し、有罪を宣告し、獄に入れ、そして死刑に処するよう人々を導く精神が、わたしたちの世界にますます増大している。神のはっきりとした戒めの違反は、自分の同胞を傷つけるようにとのサタンの精神を吹き込まれている。なぜなら彼らは宗教上の信念で意見を異にするからである。彼らは人の手による律法を制定し、自分たちの残酷な発明によって、自分自身がしているかのように、人々にむりやり神を冒涜させようとしつつ、神の律法を無視する。しかし彼らはこれをする権利を与えられてはいない。宗教が異なるがゆえに自分たちの同胞に苦痛や死の判決をくだす者は、もし彼らが違反を続けるなら、ちょうど同じような判決を自分たちにくだすことになる。彼らは自分たちの働きによって、キリストが初臨されたときのように、再臨のときにもこのお方を拒み、死刑にするという証拠を担う。……

罪はサタンの属性であり、つねに善に敵対して団結する。カインの精神は すべての偽りの宗教において明らかである。サタンの働きは非難し滅ぼすこ と、人の自由を取り去り、彼の命を滅ぼすことである。違反はつねに人々を サタンの代理人として行動させ、神と義に敵対する目的を行うようにと導く。

キリストは、ご自分の働きは回復し、道徳的に高め、平和と幸福をもたらすことであるとナザレでお告げになった。このお方は御父を表すためにこの世に来られ、死人に命を与えることによって、病人と苦しむ者に健全と健康を回復することによってご自分の神の力をあらわされた。このお方はこの世における命の木のようであられた。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1900年3月21日)

信仰は愛によって働き、魂を純潔にするときだけ本物である。自己は十字架につけなくてはならない。さもなければ全存在が汚れたままである。カインの精神が心に入るのを許してはならない。なぜならそれがもたらす憎しみは最も身近な者を殺すことになるからである。(ユース・インストラクター 1899 年 9月21日)

## 悔悟の犠牲

「信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。」(ヘブル 11:4)

ほとんど向上していない多くの者は慢心し、へつらいを熱望し、第一で最も重要と見なされないなら妬み、自分が他の人々に勝っているという感情を大事にする。しかし天が尊いものとして受け入れるのは、最もへりくだって働く者、神への感謝の気持ちで満たされている者、またアベルの捧げもののように自分の働きを芳しいものにする原則を、自分のなすすべてのことに織り込む者である。……

ぶどう畑で働く者よ、あなたの携わっている働きを神に受け入れられるものとするのは、それに携わる時間の長さではない。そうではなく、労していることに対する自発的な心、忠誠、誠心である。ユダヤ人はぶどう畑に最初に召された。しかし彼らは高慢でひとりよがりであり、彼らがまったく軽蔑していた異邦人が、神の王国の事柄において彼ら自身と同じ特権にあずかることで不快になった。ユダヤ人を何よりも怒らせたのは、使徒たちが、異邦人を探し求め、福音の光に導き入れるべきだと公表したことであった。労働者のたとえはユダヤ人が異邦人に対して行ったのと同じ精神を大事にすることがどれほど罪深いものであるかを示している。イエスは教会に最初に召された人々に、競走の精神は彼らの間で見出されてはならないと警告された。……

弟子たちの間には自己満足、自己称揚の精神があり、自分たちの間で比較していた。もし彼らのうちのだれかが目立って失敗をするなら、他の者は優越感に浸った。イエスは抑制しなければならない精神が入ってくるのをご覧になった。このお方は人の心を読むことがおできになった。そして、「何がいただけるでしょうか」という質問の中にある彼らの利己心の傾向をご覧になった。このお方はこの悪が巨大な規模になる前にそれを正さなければならない。弟子たちは福音の真の原則を見失う危険があった。……報いは働きによるのではない。だれも誇ることがないように、それはまったく恵みによるのである。(レピュー・アンド・ヘラルド1894年7月10日)

## 神の聖なる人

「信仰によって、エノクは死を見ないように天に移された。神がお移しになったので、彼は見えなくなった。」(ヘブル 11:5)

エノクは聖なる人であり、一心に神に仕えた。彼は人類家族の堕落に気づ き、カインの子孫から分離して、彼らの大いなる邪悪のゆえに彼らを譴責し た。地上には、神を認め、このお方を畏れて礼拝している者がいた。しかし 義なるエノクは、不信心な者の増し加わる邪悪に非常な心痛を覚え、彼らと 日常的に交わろうとはしなかった。それによって彼らの不信心に影響を受け、 自分が神の高貴なご品性に当然与えられるべき聖なる崇敬の念をもって、こ のお方をつねに尊敬しないことがありはしないかと恐れたのであった。彼の 魂は、彼らが日々神の権威を踏みにじるのを見て苦しんだ。彼は彼らから離 れ、自分の多くの時間を熟考と祈りに捧げながら、寂しい所で過ごした。彼 は神のみ前で待ち、このお方のみ旨をもっと完全に知り、それを実行できる ようにと祈った。……自らを世から離し、祈りと神との交わりに多くの時間を 割いていたエノクは、終わりの時代に世から離れている神の忠実な民をあら わしている。地上に不義は恐ろしいまでに広がるであろう。人々は自分たちの 堕落した心のおもむくままに従い、自分たちの惑わせる哲学を実行し、崇高 な天の権威に対して反逆に身を投じるようになる。……彼らはエノクのように 天に移されるのにふさわしくなる。彼らは世を教え警告しようと努力するかた わら、不信心者の精神や習慣に合わせず、自分たちの聖なる会話と信心深 い模範によって彼らを責める。洪水によって世界が滅ぼされる直前に行われ たエノクの昇天は、火による破滅に先立ってすべての義人が地から移される ことを表す。聖徒たちは神の正しい戒めへの忠実な服従のゆえに、彼らを憎 んでいた者たちの面前で栄光を与えられる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1879年 2月20日)

## 目的のために隠遁(いんとん)生活を求める

「〔エノク〕が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである。」 (ヘブル 11:5)

エノクは、神が預言の霊によって彼にあらわされたすべてのことを人々に 忠実に話した。ある者は彼の言葉を信じて、自分たちの悪をやめ、神を畏れ て礼拝した。そのような人々は、しばしば隠れ家にいる彼を探し求めたので、 エノクは彼らに教え、神がご自分の御心の知識を彼らに与えてくださるように と彼らのために祈った。ついに彼は隠遁のために一定の期間を選び、人々が 彼を見つけるのを許さなかった。なぜなら彼らはエノクの聖なる瞑想と神との 交わりを妨げたからである。彼は、彼を愛し、その知恵の言葉を聞く人々の 社会から常に身を引いていたわけでも、堕落した人々から自らをまったく引き 離したのでもなかった。定まった時に義人や悪人に会い、不信心者に彼らの 悪いふるまいに背を向けさせるよう労し、神を畏れるようにと教え、そのかた わら神の知識をもっている者にはもっと完全に神に仕えるようにと教えた。彼 は自分の信心深い会話と聖なる模範によって彼らに益をあたえることができ るかぎり彼らのところにとどまった。そしてそれから、神との交わりに飢え渇き、 神だけが彼に与えることのできる聖なる知識を求めて孤独な場所にとどまる ために、一定の期間すべてのつきあい一義人、あざける者、偶像礼拝者一 から身を引いた。

エノクは神との交わりの間ますます天に向かって成長しつづけた。彼の顔は、彼の知恵の言葉を聞こうとする人々を教えている間も彼の表情に残っている聖なる光に輝いていた。彼の天来の威厳のある様子は人々に畏敬の念をあたえた。主は、エノクがご自分に忠実に従い、不法を嫌悪し、このお方のみ旨の知識を実践することができるようにますます完全な知識を求めたので、彼を愛された。彼は、自分が畏れ、崇敬し、敬慕している神に自分をなおもますます近く結びつけることを切望した。主はエノクが他の人々のように死ぬのをお許しにならず、彼を死を見ないで天に携え上げるようにと、天使をつかわされた。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1879年2月20日)

## 神に喜ばれる信仰

「信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。」(ヘブル 11:6)

救いに必要なのはただ信仰を持つことであり、行いは何の意味もなく、不可欠なものは信仰だけであると主張する者が、クリスチャン世界に多くいる。しかし神の御言は、行いのない信仰は、それだけでは死んだものであるとわたしたちに告げる。多くの者が神の戒めに従うことを拒んでいながら、信仰は大いに論じる。しかし信仰には土台がなければならない。

神のみ約束はみな条件をもとにしてなされている。もしわたしたちがこのお方のみ旨をなし、真理に歩むなら、そのとき、わたしたちは自分の願うことを求めることができ、それがわたしたちになされるのである。わたしたちが従順であるために真剣に努力している間は、神はわたしたちの嘆願をお聞きになる。しかし神は不従順であるわたしたちを祝福なさることはない。もしわたしたちがこのお方の戒めに不従順であることを選ぶなら、わたしたちは「信仰、信仰、信仰だけ」と叫ぶことはできるが、その応えは「行いを伴わない信仰は死んでいる」(ヤコブ 2:20 英語訳)という神の確かなみ言葉が返ってくる。そのような信仰はただやかましい鐘や騒がしい鐃鉢と同じである。神の恵みの益を受けるために、わたしたちは自分の分を果たさなければならず、忠実に働き、悔い改めにふさわしい実を結ばなければならない。

わたしたちは神と共なる働き人である。あなたは主人であるお方のための 偉大な働きをするために、何か偉大な機会を待ちながら怠惰に座っているべ きではない。あなたの行く道に直接おかれている義務をなおざりにすべきで はない。そうではなく、あなたの周りに開いているささいな機会を活用すべ きである。(信仰と行い 47)

あなたは、神のみ摂理があなたに割り当てておられる働きに、心から忠実に取りかかり、人生のより小さい働きにも最善を尽くしていかなければならない。どんなに小さなことであっても、もっと大きな働きをなすときの徹底さを尽くしてなすべきである。あなたの忠実さは天の記録の中で是認される。あなたは自分の前の道が平らになるのを待つ必要はない。あなたに委ねられたタラントを活用するために働きに出なさい。世があなたをどのように思うかは関係ない。あなたの言葉、あなたの精神、あなたの行動が、イエスのための生きた証となるようにしなさい。そうすれば主は、ご自分の栄光のための証が、よく秩序立てられた生活と信心深い会話を備えて、深くなり、力を増し加えるよう、責任を負ってくださる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1890 年 6 月 16 日)

## 行いによって示されたノアの信仰

「信仰によって、ノアはまだ見ていない事がらについて御告げを受け、恐れかしこみつつ、その家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった。」(ヘブル 11:7)

ノアの時代の人々は鋭敏な知性を持っており、彼の預言が成就するのは不可能であると、科学的な根拠に基づいて示そうと努力した。ノアは自分の警告のゆえにあざけりを受け、狂信者とみなされた。ノアの神を信じる絶対的な信頼は、それが彼らを責める間たえず、彼らをいらだたせた。しかし彼らはこの忠実な警告者をその立場から動かすことはできなかった。主がこの警告をお与えになったのであり、ノアにとってはそれで十分であった。神のメッセージが彼の耳に鳴り響いているとき、哲学者の議論は彼にとって無であった。……

畏れに動かされて、ノアは家族を救うために箱舟を準備した。彼は一人びとりのクリスチャンを特徴づけるべき畏れを持っていた。ノアの完全な信仰は彼の畏れを増した。人と獣の上に、また地の上に降りかかる神のせまりくる怒りは、彼に箱舟を準備させた。彼の信仰そして神の怒りへの畏れは従順を生み出した。ノアは神に従うのを躊躇しなかった。彼は、箱舟を建造するのは大仕事であり、費用がかかるという言い訳をしなかった。彼は神を信じ、自分の所有するすべてを箱舟に注ぐその一方で、邪悪な世界はあざけり、惑わされた老人を笑った。

彼らには自分たちの不信仰とあざけりの機会が多くあった。なぜなら神はご自分の目的をただちに実行なさらなかったからである。しかし時の経過がノアの信仰をゆるがせることはなかった。彼の神への信頼は衰えることなく、つぶやくことなく、必然的に含まれる辛苦と犠牲を受け入れた。行動と結びついたノアの信仰は世を責めた。なぜなら彼は悪人たちを譴責し警告し忠告する義の忠実な説教者だったからである。彼らの非難と悪口は時々ほとんど耐えがたかったが、父祖は自分の魂を神にとどめ、自分の大いなる必要のなかでこのお方に助けを求めた。嘲笑、侮辱、からかいの中を、彼は果たすべき大いなる使命を持つ人としてそこかしこへと出ていった。(サインズ・オブ・ザ・ タイムズ 1879 年 2 月 27 日)

## ノアが持っていたような力強さ

「そして、ノアの時にあったように、人の子の時にも同様なことが起るであろう。ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていたが、そこへ洪水が襲ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。」(ルカ17:26,27)

〔ノアは〕自分がその堕落した同世代の一般大衆のさげすみとあざけりの対象であることを知っていた。彼は至る所で不信とあざけりに直面した。しかし自分を取り巻く不法が大きくなればなるほど、彼は、自分の服従においてますます熱心で、堅固で、辛抱強くなり、神に真実であろうとするひとりの人が世にいることを示した。彼は神のための忠実な確固たる証人であり、すべての人に親切で礼儀正しく、侮辱に対して腹を立てなかった。いたるところで彼を迎えるののしり、不敬な言動を聞かない人のようであった。……

ノアは祈りの人であった。そして、神とのこの密接な交わりの中で、彼は自分の勇気と堅固さをことごとく見出した。彼は人々に説教し、警告し、懇願した。しかし彼らは自分たちの進路を変えようとしなかった。彼らは買い、売り、植え、建て、めとり、とつぎ、宴会と大食にふけり、ノアのメッセージに軽蔑を示しながら、自分たちの魂を低下させた。彼らの言葉と行動は、彼らの猶予期間が終わりに近づくにつれて、ますます卑しくなり堕落していった。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1879年2月27日)

自分本位、世の常習行為との一致の同じ精神が、ノアの時代のようにわたしたちの時代にも存在する。神の子であると公言する多くの者が、自分たちの公言を偽りとする熱心さをもって世的なことを追及する。彼らは自分たちの猶予期間の最後の瞬間まで植え、建て、買い、売り、食べ、飲み、めとり、とついでいるであろう。これがわたしたち自身の民の大部分の状態である。(教会への証 5 巻 10)

感謝なことにすべての者が肉の安全というゆりかごの中で眠るようにと揺り動かされているわけではない。時のしるしを識別する忠実な者がいる。現代の真理を公言している大部分の者が自分たちの行いで自分たちの信仰を否定する一方で、最後まで耐える者がいる。(教会への証5巻10)

## アブラハムは天の国を求めた

「信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った。……彼はゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいたのである。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。」(ヘブル11:8,10)

神がアブラハムをお用いになる前に、彼は過去の交際から離れなければならなかったが、それは彼が人間の感化力に支配されず、人間の助けに頼らないでいられるためであった。神と結びついている今、この人はこれからは見知らぬ人々の間で暮らさなければならない。彼の品性は特別で世のすべての人とは異なっていなければならない。彼は自分の行動の方向を友人たちが理解できるように説明することすらできなかった。なぜなら彼らは偶像礼拝者だったからである。霊的な事柄は霊的に説明されなければならない。それゆえ彼の動機と行動は、彼の親族と友人たちの理解を超えていた。

まさにアブラハムのような信仰と確信を、今日神の使者たちは必要としている。しかし主がお用いになることのできる多くの者は、他のすべてに勝るひとつのみ声に聞き従いつつ前進しようとしない。親族や友人とのつながりやかつての習慣や交わりは、あまりにしばしば神の僕に非常に大きな感化力を持っているので、神は彼らにほとんど教えを与えることができず、ご自分の目的の知識を彼らに知らせることがほとんどおできにならない。そしてしばしば、しばらく後にこのお方は彼らを脇へやり、その場所に他の者を召し、彼らを同じ方法で試し、テストされる。主は、ご自分の僕らが完全にご自分に献身し、親族や他のすべての地上の交際のきずなにまさって主の奉仕を尊重するなら、彼らのためにもっと多くのことをなさるのである。(教会への証4巻523,524)

〔アブラハムが〕サラを葬ったとき、彼は死者を埋葬する一片の土地すら所有していなかった。彼はそれを買わなければならなかった。しかし主が、彼の前に不死の生涯、また彼の家庭となるべき、清められたこの地上の光景を開かれたとき、彼は満足した。わたしたちの一人びとりの場合もそうである。わたしたちはこの世では巡礼者、他国人である。わたしたちは、アブラハムが望み、神がその建設者、造り主であられるその都を求めている。(原稿川-ス10巻120,121)

## アブラハムの働く信仰

「信仰によって、アブラハムは、試錬を受けたとき、イサクをささげた。すなわち、約束を受けていた彼が、そのひとり子をささげたのである。」(ヘブル11:17)

神がアブラハムの信仰を是認なさった証拠として、このお方は彼に「信仰の父」という名をお与えになった。アブラハムの模範は彼の信仰を持っている子らの益のために、聖なる歴史の中に記録されている。この信仰の大いなる行為は、神を信じる絶対的な信頼、このお方のご要求への完全な服従、神のご意志への全くの明け渡しの教訓を教える。わたしたちは、自分たちの所有するものは何も神へお捧げするのに高価すぎるものはないことを、アブラハムの模範の中で教えられる。……

人間の判断力では、アブラハムに与えられたご命令は過酷で、人間の力で耐えるにはあまりに大きすぎると考えるかもしれない。アブラハムの強さは、神からのものであった。彼は死すべき人間の視力で見える事柄ではなく、永遠の事柄を見た。神は、ご自分が神聖な同情と無限の愛のうちに人にお与えになった以上のものを、アブラハムに要求されたのではなかった。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1879 年 4 月 3 日)

今神を信じると公言し、クリスチャンとして通用している者のうち、神が自己を否定し、彼らの最愛の宝をこのお方に明け渡すようにと命じられるとき、どれほど多くの者がこのお方のみ声に従わないことであろうか。彼らは躊躇し、地上のものにしがみつく。彼らの愛情は世と世の事柄の上にあり、まさにこのような人々のうちのある者は、自分たちが真理に従うためにどれほど多くのものを犠牲にしてきたかを最も多く語るのである……

真理を公言し、世を愛する半分も神を愛さない者が多くいる。神は彼らをテストし、試しておられる。世と富への彼らの愛は彼らの思いを暗くし、彼らの判断を歪め、彼らの心をかたくなにする。神は、少なくとも彼らのうちの何人かにご自分の意志をあらわし、彼らのイサクをご自分に捧げるようにと命じられた。しかし彼らは従うことを拒み、黄金の機会は過ぎ去ってしまった。尊い時間は、果たされなかった義務や明白な怠慢の記録について、永遠へと証言を担う。わたしたちのもっているものは、神に明け渡されない限り、真の価値はない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1875 年 4 月 1 日)

## モーセの信仰

「信仰によって、モーセは、成人したとき、パロの娘の子と言われることを 拒み、罪のはかない歓楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されること を選び、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる富と考えた。」 (ヘブル 11:24 ~ 26)

モーセはしかるべき信仰を持っていたので、神に完全に信頼していた。彼は助けを必要としていた。そして、そのために祈り、信仰によってそれをつかみ、神が自分をかえりみて下さるという確信を自分の経験に織り込んだ。彼は、特に神が自分の人生を支配しておられると信じた。彼は自分の人生の細部にわたって神を見、このお方を認め、自分はすべてをご覧になるお方、動機を量るお方、心を試されるお方の目の前にいると感じた。彼は神を仰ぎ、どのような形の誘惑にも堕落しないように自分を支えてくれる力を求めて神に信頼した。彼は特別な働きが自分に割り当てられていることを知っており、その働きをできる限り完全に成功させることを望んだ。しかしこれは神の助けがなければできないことを彼は知っていた。なぜなら、彼が扱う民は強情な民であったからである。神のご臨在は、人が置かれ得る最も苦しい状況を通じて彼を支えるのに十分であった。

モーセは単に神のことを考えたのではなく、このお方を見た。神は彼の前に絶えず見えており、彼は決してそのみ顔を見失うことはなかった。彼はイエスを自分の救い主として見、救い主の功績が自分に着せられることを信じた。この信仰はモーセにとって当て推量ではなく、現実であった。これはわたしたちが必要としている信仰の種類であり、テストに耐える信仰である。ああ、わたしたちは目をイエスに留め続けていないために、どれほどしばしば誘惑に屈することであろうか。わたしたちの信仰が継続しないのは、自己放縦を通して、罪を犯すからであり、そのときわたしたちは「見えないかたを見ているように」することに耐え得ないからである(ヘブル 11:27)。

兄弟よ、キリストを日々、毎時間あなたの連れ合いにしなさい。そうすればあなたは自分に信仰がないとつぶやくことはない。キリストを熟考しなさい。このお方の品性を注意深く見なさい。このお方のことを話しなさい。あなたが自己を高めるのを少なくすればするほど、イエスのうちに高めるべきものをますます見るようになる。神はあなたのなすべき働きを持っておられる。主を絶えずあなたの前に置きなさい。(教会への証5巻651,652)

#### つり合わないくびきを共にしない

「あなたは他の神を拝んではならない。主はその名を『ねたみ』と言って、ねたむ神だからである。おそらくあなたはその国に住む者と契約を結び、彼らの神々を慕って姦淫を行い、その神々に犠牲をささげ、招かれて彼らの犠牲を食べ、またその娘たちを、あなたのむすこたちにめとり、その娘たちが自分たちの神々を慕って姦淫を行い、また、あなたのむすこたちをして、彼らの神々を慕わせ、姦淫を行わせるに至るであろう。」(出エジプト34:14-16)

あなたが、決して影の晴れることのない家庭を持ちたいと思わない限り、自ら神の敵であるものと結びついてはならない。……

主は古代イスラエルに、彼らの周りにいる偶像礼拝者と婚姻関係にならないようにとお命じになった。「また彼らと婚姻をしてはならない。あなたの娘を彼のむすこに与えてはならない。かれの娘をあなたのむすこにめとってはならない。……それは彼らがあなたのむすこを惑わしてわたしに従わせず、ほかの神々に仕えさせ、そのため主はあなたがたにむかって怒りを発し、すみやかにあなたがたを滅ぼされることとなるからである。」(申命記 7:3,4) ……

あなたはこれらのはっきりとした疑いようのない指示をあえて無視するので あろうか。神の子として、キリストの王国の臣民として、このお方の血で買わ れた者として、あなたはこのお方の要求を認めず、その御霊によって支配され ない者と自分をいかに結びつけることができようか。 ……あなたは滑らかで快 い言葉を聞き、すべてが好都合であると信じるように導かれるが、あなたはこ れらの都合の良い話をする動機を読むこと、その心の中に隠された悪意の深 さを知ることはできない。サタンがあなたの魂を陥れるためにしかけている光 景の背後を見、そのわなをはっきりと見ることはできない。彼は、あなたに向 かって誘惑の矢を向けるためにたやすく近づくことのできる進路をあなたが取 るよう導きたいと思っている。彼に少しでも優位な立場を取らせてはならない。 神がご自分の僕の思いに働きかけておられる一方で、サタンは不従順の子ら を通して働く。 キリストとベリアルの間に一致はない。 両者は調和することは できない。不信心者とつながることはあなた自身をサタンの陣地に置くことに なる。あなたは神の御霊を深く悲しませ、このお方の守りを失う。あなたは永 遠の命のための戦いを戦っているときに、自分に敵対するこのように恐ろしい 荷物を背負い込む余裕があるであろうか。(教会への証 5 巻 363 ~ 365)

## 通俗的なわな

「あなたがたは心が迷い、離れ去って、他の神々に仕え、それを拝むことのないよう、慎まなければならない。」(申命記 11:16)

過去数年間、神の民の危険は世への愛であった。ここから利己心と貪欲の罪が芽生えた。彼らはこの世のものを得れば得るほどそれに愛情を注ぎ、なおももっと求めて手を伸ばす。天使は言った。「富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」(ルカ 18:25)。しかしわたしたちが世に警告の最後の通告をしていることを信じると公言する多くの者が、富んでいる者が王国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方がもっとやさしい立場に自分を置こうと、全エネルギーを用いて努力している。

サタンは、真理を公言する者に固有の利己的な貪欲な気質を眺め、彼らの道に繁栄を投げかけ、彼らに地の富を提供することによって彼らを誘惑する。もし彼らが生来の気質に打ち勝たないなら、彼らは富を愛し、自分の偶像を拝むことによってつまずき、堕落することをサタンは知っている。サタンの目的はしばしば達成されている。世への強い愛が真理への愛に勝つかそれを飲み込む。世の王国が彼らに差し出され、彼らは熱心に自分の宝をつかみ、自分は素晴らしく栄えていると考える。サタンは自分の計画が成功したので勝ち誇る。彼らは世への愛のために神への愛をあきらめる。

わたしは、このように栄えている者が神の祭壇に自分の財産をすべて置くことによって利己的な貪欲に打ち勝つなら、彼らはサタンの計画を挫折させることができるのを見た。そして真理のみ事業を進展させ、やもめ、みなしご、苦しむ者を助けるために、どこで財産が必要とされているかが彼らにわかるとき、喜んで差し出し、このようにして天に宝を積む。

真の証人の勧告に聞き従いなさい。富む者となるために、火で精錬された金を買いなさい。身につけるために、白い衣を買いなさい。見えるようになるため、目薬を買いなさい。何か努力をしなさい。(教会への証1巻141,142)

## 過去から学ぶ

「わが民よ、聞け、わたしはあなたに勧告する。イスラエルよ、あなたがわたしに聞き従うことを望む。あなたのうちに他の神があってはならない。あなたは外国の神を拝んではならない。」(詩篇 81:8,9)

わたしたちは最も厳粛な時代に生きている。わたしに与えられた最後の幻の中で、今真理を公言する人々のうち一部の人しか、それによって清められず、救われないという驚くべき事実を、わたしは示された。多くの者が働きの単純さを越え、世に順応し、偶像を大事にし、霊的に死んでいる。イエスに従い、へりくだって、自己を犠牲にしている者は、無関心な者、世を愛する者を後ろに残して、完全へと進んでゆく。

わたしは古代イスラエルを指し示された。エジプトを離れた大軍の成人は 二人しかカナンの地に入らなかった。彼らの死体は彼らが罪を犯したがゆえ に荒野に撒き散らされた。現代のイスラエルは神を忘れ、その古代の民以上 に偶像礼拝に導かれる危険がもっと大きい。安息日遵守者であると公言する 者によってすら、多くの偶像が礼拝されている。神は古代の民に偶像崇拝を 警戒するようにと特に指令なさった。なぜならもし彼らが生ける神に仕えるこ とからそらされるなら、このお方ののろいが彼らに注がれるからであり、その 一方で、もし彼らが心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くしてこのお方を愛す るなら、かごいっぱい、蔵いっぱいになるまで彼らを豊かに祝福し、彼らの 真中から病を取り除かれるからである。

今神の民の前に祝福とのろい一もし彼らが世から出て分離し、へりくだった従順の道を歩むなら、祝福が、もし彼らが天の気高い要求を踏みにじる偶像礼拝者とつながるなら、のろい一がある。反抗的なイスラエルの罪と不法は、もしわたしたちが彼らの違反の模範をまね、神から離れるなら、彼ら同様わたしたちも必ず堕落するという警告として記録されており、その状況はわたしたちの前に提示されている。「これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである」(コリント第一10:11)。(教会への証1巻608,609)

## 世を動かす力

「ただ大きな力と伸べた腕とをもって、あなたがたをエジプトの地から導き上った主をのみ敬い、これを拝み、これに犠牲をささげなければならない。またあなたがたのために書きしるされた定めと、おきてと、律法と、戒めとを、慎んで常に守らなければならない。他の神々を敬ってはならない。」(列王記下17:36,37)

わたしたちは〔神の〕被造物、そのみ手のわざであるので、このお方は崇敬、 光栄、愛をお受けになる権利がある。わたしたちはこのお方への従順によって のみ自分の愛を証明することができる。もしこのお方がわたしたちの畏れであ るなら、わたしたちはこのお方に栄と栄光を帰すよう努め、そのみ旨を行うこ とに最高の幸福を見出す。このお方への快い従順を捧げるのに失敗すること は何であっても、このお方へのわたしたちの愛は偽りであることを示す。……

クリスチャンであると公言する者が余りにしばしば自分たちの造り主への 義務を忘れる。彼らは十字架を恐れてこのお方の戒めへの従順をあらわすこ とにより主をあがめるのを怠る。そしてキリストに従っていると公言する非常 に多くの者が自分たちの生活の中でそのご品性を表さないので、宗教は誤解 され、不信心者に軽蔑される。クリスチャンが絶えず神の律法に違反するの で、キリスト教はその力を失う。なぜなら、利己心が見られ、偶像礼拝とむ さぼりがあらわされるからである。

キリストに真に従う者は神の戒めをこのお方が守られたように守る。もし彼らが真心からこのお方を自分の個人的な救い主として受け入れるなら、彼らは、神に対して自分たちの義務を果たし、品性においてこのお方をあらわしたいという熱烈な願いに動かされるようになる。そしてもし律法に完全に従っていたなら、地はその住民のもとに今のように堕落してはいなかったのである。圧迫と不正は存在せず、愛、調和、喜びが見られたことであろうに。キリスト教の力が教会の中に現れ、世にはキリストに従う者を矛盾で責める原因はなかったであろうに。聖霊の改心させる力が感じられ、幾千もの人々が救われるべき者として教会に加えられていたことであろうに。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1897年3月4日)

## 一瞬たりとも失ってはならない

「わたしの名をもってとなえられるわたしの民が、もしへりくだり、祈って、 わたしの顔を求め、その悪い道を離れるならば、わたしは天から聞いて、その 罪をゆるし、その地をいやす。」(歴代志下 7:14)

われわれは世界歴史の最も厳粛な時代に生存している。地上のおびただしい数の人々の運命が、決定されようとしている。われわれ自身の将来の幸福も、他の魂の救いも、今われわれが歩いている道にかかっている。われわれは真理のみ霊によって導かれる必要がある。キリストに従う者はみな、「主よ、わたしは何をしたらよいでしょうか」と熱心にたずねるべきである。われわれは祈りと断食をもって主の前にへりくだり、主のみ言葉について、特にさばきの光景について瞑想する必要がある。われわれは今、神のことについて、深い、生きた経験を求めなければならない。一刻もむだにはできない。われわれの周囲には重大な事件が起こっており、われわれはサタンの魔法の働いている場にいるのである。神の見張り人たちよ、眠ってはいけない。敵は近くに忍び込んでいて、あなたが気をゆるめて眠気を催すならば、いつでも飛びかかってえじきにしようと待ち構えている。

多くの者は、神の前における自分の真の姿について欺かれている。彼らは自分たちは悪事を行なっていないと喜んでいるが、神が彼らに要求され、しかも彼らが実行することを怠った、善にして高潔な行為のことを数えるのを忘れている。彼らは神の園の木であるだけでは十分ではない。彼らは実を結ぶことによって神のご期待に答えなければならない。自分を力づけてくれる神の恵みを通してなすことができたはずの善行をしなかった責任を、神は問われる。彼らは地をふさぐものとして天の書に記録される。しかし、この種の人の場合も、全く絶望的というわけではない。神の恵みを軽視し、神の恵みを悪用したこれらの人々に、忍耐深い愛の神のみ心は、「『眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照すであろう。』そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、……今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである」と訴えておられる(エペソ5:14~16)。(各時代の大争闘下巻368,369)

## 聖潔の美

「神の子らよ、主に帰せよ、栄光と力とを主に帰せよ。み名の栄光を主に帰せよ、聖なる装いをもって主を拝め。」(詩篇 29:1,2)

神の栄光のために非常に熱心であること、また、あたかも神のご要求がわたしたちの自由に対する制限でもあるかのように、悲しい表情や無分別な言葉によってさえも、悪い評判をもたらしたりしないことは、わたしたちの義務である。この悲しみ、失望、罪の世においてさえ、主はわたしたちが快活でご自分の力強さにあって力強いことを望んでおられる。人格全体はすべての方面において、決定的な証を担う特権をもっている。わたしたちは、容貌において、気質において、言葉において、品性において、神の奉仕はよいものであると証すべきである。わたしたちはこのようにして「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ」と宣布する(詩篇 19:7)。

わたしたちの宗教の明るく快活な側面が、日々神に献身しているすべての者によってあらわされる。わたしたちは悲しく思われる試練を嘆かわしく語ることによって、神を辱めてはならない。教育者として受け入れられるすべての試練は、喜びを生み出す。宗教生活全体が高められ、上げられ、気高くされ、よい言葉と行いを伴った香りとなる。敵は魂が落胆し、がっかりし、悲嘆にくれ、うめいていると非常に喜ぶ。彼は、わたしたちの信仰の結果がちょうどそのような印象になることを望んでいる。しかし神は、思いが低い水準を受け入れるようにとは意図しておられない。このお方はすべての魂が、贖い主の支えの力のうちに勝利することを望んでおられる。(教会への証6巻365,366)

信仰と行いは手に手をとって進む。それらは打ち勝つ働きで調和のとれた 行動をする。信仰のない行いは死んだものであり、行いのない信仰も死んだ ものである。行いは決してわたしたちを救わない。わたしたちのために役立つ のは、キリストの功績である。キリストを信じる信仰によって、このお方はわ たしたちの不完全な努力をすべて神に受け入れられるものとしてくださる。わ たしたちが持つようにと要求されている信仰は、何も行わない信仰ではない。 救う信仰は愛によって働き、魂を清めるものである。怒りや疑いなしに神に 聖なる手を上げる者は神の戒めの道を知的に歩む。(信仰と行い 48,49)

## 栄光を主に

「もろもろの民のやからよ、主に帰せよ、栄光と力とを主に帰せよ。」(歴代志上 16:28)

臆病によって、あるいは神の戒めを守る民であることが知られるのを恐れることによって、得るものは何もない。わたしたちの光を、あたかも自分たちの信仰を恥じているかのように隠すことは、ただ悲惨な結果に終わるだけである。神はわたしたち自身の弱さにまかせてそのままになさる。主がわたしたちを召されるいかなる場所においても、わたしたちが自分たちの光を輝かせるのを拒むことを、主がお許しにならないように。もしわたしたちが自分自身の考えと計画に従い、イエスを後にして、あえて自分自身で出て行こうとするなら、不屈の精神や勇気あるいは霊的な力を得ることは期待できない。神は道徳的英雄一このお方の特別な民であることを恥としない人々一を持っておられたし、また今も持っておられる。彼らの意志と計画はみな神の律法の下に従属している。イエスの愛は、彼らが自分たちの命を自分になくてはならないものと見なさないように導いてきた。彼らの働きは、神のみ言葉から光を捉え、それをはっきりとした不変の光線として世に輝かせることであった。「神への忠誠」が彼らのモットーである。(教会への証5巻527,528)

自分の愛情が神にとどまっている人々は成功する。彼らはキリストのうちに自己を見失い、世的な魅力は、彼らをその忠誠から引き離そうとそそのかす力を失う。彼らは外面的な見せびらかしが力を与えないことを悟る。神の選ばれた民として、わたしたちがなすべき働きを正しくあらわすのは、誇示でも、外面的な展示でもない。……

神の奉仕にかかわっているすべての人は、見せたいという願望によって、他の人を放縦や自己栄光へ導くことがないように防御しなさい。……この時代のための真理を信じると公言する人々が主の道に歩み、正義と公道を行っているかぎりは、主が彼らに繁栄を与えてくださることを期待することができる。しかし、彼らが狭い道からそれることを選ぶなら、彼らは自分自身と、また導きを求めて彼らを見ている人々に破滅をもたらすのである。(教会への証7巻90,91)

あなたは栄光をほんのわずかといえども取ってはならない。そうではなく、 あなたは神に栄光を帰し、そのみ働きに携わるすべての人が、成功の秘訣は キリスト・イエスにあることを理解するのを助けるよう努めるべきである。(サイ ンズ・オブ・ザ・タイムズ1887年5月19日)

## 神のみ旨に明け渡す

「さあ、われらは拝み、ひれ伏し、われらの造り主、主のみ前にひざまずこう。主はわれらの神であり、われらはその牧の民、そのみ手の羊である。どうか、あなたがたは、きょう、そのみ声を聞くように。あなたがたは、……心をかたくなにしてはならない。」 (詩篇  $95:6\sim 8$ )

わたしたちは真理の知識を持つだけでは十分ではない。愛のうちに歩み、 働き、神のみ旨にわたしたちの意志を一致させなければならない。……

わたしたちが自分たちのうちに神のみ旨をなしていただくならば、罪を心にいだくことはない。清めの炉の中で、すべてのかすは燃やし尽くされる。

聖霊がペンテコステの日に下ったとき、それは力強い突風のようであった。 それは少しも制限されなかった。なぜなら、弟子たちが座していた場所に満 ちたからである。わたしたちの心がそれを受ける準備ができたならば、今も そのように与えられるのである。

すべての教会員は神のみ前にひざまずき、御霊を与えてくださるように熱烈に祈ろう。「主よ、わたしの信仰を増してください。わたしにあなたのみ言葉を理解させてください。なぜなら、主のみ言葉は光を与えるからです。あなたのご臨在によってわたしを新たにしてください。わたしの心をあなたの御霊で満たし、キリストがわたしを愛されたように、わたしが兄弟たちを愛することができるようにしてください」との声を上げなさい。

神は自らを奉仕のために備える人々を祝福してくださる。彼らは御霊の保証を持つということが、どのようなことかを悟るようになる。なぜなら、彼らはキリストを信仰によって受け入れたからである。キリストの宗教は罪の許し以上のことを意味する。それは罪が取り除かれて、その空いたところが御霊で満たされることを意味する。それは思いが神の光によって照らされ、心から自己がなくなり、キリストのご臨在で満たされることを意味する。この働きが教会員のためになされるとき、教会は生きた働く教会となる。

わたしたちは一つの思い、一つの目標になるよう、最も熱心に努めるべきである。聖霊のバプテスマ、ただこれだけがわたしたちをその地点にまで到達させることができる。わたしたちは大きな働きがわたしたちのためになされるように、自己放棄によって聖霊を受けるために自分たちの心を整えようではないか。そのとき、わたしたちは、「わたしのしていることをご覧なさい」とは言わずに、「神のいつくしみ深さと愛をご覧なさい!」と言うことができる。(レビュー・アンド・ヘブルド・1902年6月10日)

#### 心の聖地

「われらの神、主をあがめ、その聖なる山で拝みまつれ。われらの神、主 は聖でいらせられるからである。」(詩篇 99:9)

わたしたちはイエスのみ足の跡に歩みたいであろうか。ナザレやベタニヤ、またエルサレムの道を探す必要はない。わたしたちは病床や苦しむ人類のかたわらに、貧困に打ちのめされ悩まされている者のあばら屋にイエスの足跡を見出すのである。わたしたちはこれらの足跡に歩み、苦しんでいるものを慰め、落胆した人に希望と慰めの言葉を語ることができる。イエスが地上におられたときになさったようにすることにより、わたしたちはこのお方の祝福されたみ足の跡に歩むのである。イエスは「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と言われた(ルカ 9:23)。罪ののろいを受けた地がすべての罪のしみから清められるとき、オリブ山が二つに裂けて、広大な平野となるとき、神の都がその上に下ってくるときー今聖地と呼ばれている地がほんとうに聖なるものとなる。しかし、神のみ事業と働きは、エルサレムに巡礼することによって前進することはない。(レビュー・アンド・ヘラルド1896 年 6 月 9 日)

神の要求を一つでも故意に犯していながら、清くなれると信じて、自分を 欺いてはならない。罪と知りながらそれを犯すことは、聖霊のあかしの声を 沈黙させ、魂を神から引き離すものである。「罪は不法である。」そして、「す べて罪を犯す者〔律法を犯す者〕は、彼を見たこともなく、知ったこともない 者である」(ヨハネ第一3:6)。ヨハネは彼の手紙の中で、愛についてくわし く述べたのであるが、しかしまた、神の律法を犯す生活をしながら清められ たと主張している人々の正体を、摘発することを躊躇しなかった。『彼を知っ ている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理は その人のうちにない。しかし、彼の御言を守る者があれば、その人のうちに、 神の愛が真に全うされるのである」(ヨハネ第一2:4,5)。ここに、すべての 人の信仰の告白を試みる試金石がある。天においても地においても、清めに 関する神の唯一の標準によって量るのでなければ、だれひとり、清い人であ るとはいえない。(各時代の大争闘下巻201)

## 心のへりくだりを培う

「主は高くいらせられるが低い者をかえりみられる。しかし高ぶる者を遠く から知られる。」(詩篇 138:6)

誇りや自己尊重を片鱗 (へんりん) たりとも心にいだいていてはならない。なぜなら、それはイエスを心から締め出し、その空いたところをサタンの特質で満たすからである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1891 年8月4日)

自らを知るということは、へりくだるということである。自己を知ることにより、自分自身のすばらしい資質を朗々と述べることによって、いと高き者を喜ばせようとする気質はまったくなくなる。自分たちの罪と不完全さを悟って、わたしたちが熱心な懇願をもってイエスの足元に来るならば、わたしたちの嘆願が聞かれずにやりすごされることはない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1885年2月19日)

われわれが出会わねばならない困難は、キリストのうちにかくれている柔和によってずっと軽くなる。もしわれわれが、主の謙遜を身につけるなら、われわれは毎日受ける軽蔑や拒絶や迷惑などを超越し、そうしたものが心に暗い影をなげることがなくなる。……

キリストのへりくだった柔和な精神をあらわす者たちは、神からやさしく見守られている。彼らは、世の人々からさげすみの目をもって見られるかも知れないが、神の御目には非常にとうといのである。賢明な人、偉大な人、慈善に富んだ人たちだけが、天の宮への旅券を獲得するのではない。それはまた、熱心で、休まず活動している忙しい働き人だけでもない。そうだ、心の貧しい者―キリストの内住を熱望し、謙遜な心をもち、神のみこころを行うことを最高の望みとしている人こそ、十分に天国にはいるのである。(各時代の希望中巻 6,7)

自分たちの衣を洗い、小羊の血で白くするすべての人は、厳しい試練にあうことになる。試練の中にあって、わたしたちは堅く立ち、わたしたちを贖うためにご自分の尊い命をお与えになったお方に誉れを帰すよう求めるべきである。わたしたちの働きにおいて、強い反対の底流に出会わなければならないであろう。本物の改心、新しくされた心は、わたしたちを試練の下にあってもやさしくあるように守り、生活において神の恵みをあらわすことを教える。最終的な清算の日にキリストのみ口より神の都への歓迎の言葉を受ける人々は、厳しい状況下にあっても改心したままでいた人々である。(オーストラリア連合総会記録 1907 年 4 月 29 日)

## リバイバルの鍵

「いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖ととなえられる者がこう言われる、『わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、砕ける者の心をいかす。』」(イザヤ 57:15)

主はご自分の民の間にリバイバル、すなわちご自分が彼らに課された特別な義務を認めるように、求めておられる。神の畏れをいだいているすべての魂が、神の栄光だけに目を向けて、ご自分の前に歩み、働くようにと求めておられる。なされるべき大いなる働きがある。そしてだれ一人として日々神のみ前に自分たちの心をへりくだらせ、このお方が送られるすべての光のうちを歩まないかぎり、その働きを適切に代表することのできる者はいない。

神の民が、一致と無我のうちに、心のへりくだりをもって働くならば、成し遂げられる偉大な働きがある。すべての自己称揚をみつけ、取り去らなければならない。真理と義だけがこの時代のためのテストに耐える。わたしたちは日ごとにわたしたちと共に神の御霊にいていただく必要がある。それはすべての悪い思いと賢明でない行動から守られるためである。自分たちの目がこの危険な時代にあってわたしたち個々人の霊的な必要に対して盲目になることを恐れるべきである。多くの自称クリスチャンたちが利己的な利益を築き上げるのに夢中になってしまっている。わたしたちは今、霊的な眠りから目覚めるべきである。……

教会員がクリスチャンになること、すなわちキリストに似た者になること、へりくだり、純粋で、正直になることを、全的に決心するとき、主はご自身の 聖霊によって、ご自分を表してくださる。今こそなされる必要のある働きをな すべき時である。男女を神から、また彼らの助けと優しい同情を必要として いる人々から引き離すように導くのは、自尊心である。……

魂のへりくだりを大事にしよう。そして神に完全に明け渡そう。わたしたちの教会は利己心と誇りを捨て、魂をむなしいことへと持ち上げるのをやめよう。終わりは近い。そしてわたしたちは警告と憐れみのメッセージを世に与えなければならない。そしてわたしたちの唇をもってこのメッセージを宣布するだけでなく、わたしたちの単純で柔和な正しいことを行う生活によって、神のみ言葉の真理を信じていることをあらわすべきである。(レピュー・アンド・ヘラルド1909 年 8 月 5 日)

#### 一人だけが義とされて家に帰った

「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりはパリサイ人であり、もうひとりは取税人であった。パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしください』と。あなたがたに言っておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」。」(ルカ 18:10 ~ 14)

パリサイ人と取税人の物語の中で、キリストはわたしたちが学ばなければならない最も重要な教訓の一つ、すなわちうぬぼれの危険をお教えになった。ここで、二種類の礼拝者が提起されている。パリサイ人によって表されている種類は、敬神が際立っており、品性の非常に優れたものを持った人と見なされている。もう一つの取税人によって表されている種類の人は世の目から見てはるかに劣っている。しかし、これは正しい評価であったであろうか。否。真実は正反対一天においてなされている彼らの評価はまったく反対であった。パリサイ人も取税人も心を探られ、人をかたより見ない神の御目の下にあった。富や肩書き、才能や評判が、神の恩寵を得るために推奨することはない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1885 年 2 月 19 日)

ああ、わたしたちが自己に信頼しない同じ精神と、自分にまったく価値がないという同じ自覚を持つことができるように。わたしたちは、義とされて自分の家に帰っていくことができるように、キリストの恵みに自分の魂のうちに入っていただかないのであろうか。……

ほんとうの休息と落ちついた心の平安がこれほどわずかしかない理由は、自己に対する最高の愛があるからである。わたしたちのなすすべてのことに自己が混じっている。わたしたちは自己をもっと少なく、イエスをもっと多く持たなければならない。(レピュー・アンド・ヘラルド 1888 年 8 月 28 日)

教会のすべての個々人は、自分を吟味し、自分が真理のうちにいるかどうかを調べるべきである。この厳密な心を探る働きが、重要不可欠である。信仰の祈りが絶えず、神へと上らなければならない。(同上1888年6月26日)

#### さばきの時に不平を言ってはならない!

「兄弟たちよ。互に不平を言い合ってはならない。さばきを受けるかも知れないから。見よ、さばき主が、すでに戸口に立っておられる。」(ヤコブ 5:9)

キリストは、ご自分に従うと公言する人々、すなわちご自分の弟子たちが、クリスチャンの愛を培うことを怠るとき、彼らが信仰のうちにある自分の兄弟たちの心に痛みを生じさせるようなやり方で行動するとき、深く悲しまれる。彼らは自分たちの宗教経験を損ない、自分自身と他の人々の道につまずきの石を置くのである。彼らは自分たちが信じると公言する真理を辱める。自分の兄弟たちを扱う際の感情的な言葉や威圧的な行動によって、彼らは自分たちがあらゆる義の敵の精神によって支配されていることを表す。彼らは神聖な火の代わりに異火を用いる。

人が新たに生まれ、キリスト・イエスにあって新しい人であることを示すことのできる最も力強い証拠は、自分の兄弟への愛を表すこと、キリストのような行為をすることである。これこそ、担うことのできる最もすばらしい証拠である。(世界総会冊子 1900 年 7 月 1 日)

もしわたしたちがキリストのさばきの座の前に立ち、自分たちについて言われることを聞くことができるとすれば、自分の品性について、自分自身が下す評価とは、なんと違った内容を聞くことであろう。わたしたちは岩の上に落ちて、砕かれなければならない。こうして自己が全くなくなり、イエスがすべてになるためである。

わたしたちの家庭の中で救いの感化力が働かされるように、良い家庭宗教が必要とされている。わたしたちは自分自身の家庭という囲いの中で、優しく、同情深く、親切になり、炉辺にいるいとしい人たちに好意を示すことによって、伝道者となることを学ぼう。多くの家庭の中で、愛の精神が大いに必要とされている。語られる言葉が、柔らかい植物の上に下って回復させ、生気を与える露や雨のようであるべきときに、しばしば撃ちつける情け容赦のない雹(ひょう)のようである。あなた自身のぶどう畑の中で働き、愛の精神を培いなさい。あなたの心と家庭の中で教えを受けやすい、キリストのような精神が見られるまでは、あまりにも外の働きに熱心なってはならない。……

もしイエスがすべての家庭に宿っておられるなら、教会は主のご臨在の回復させる力を感じることであろうに。(1888年4月28日)

## 砕けた悔いた心

「神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をかろしめられません。」(詩篇 51:17)

あなたは自己に死に、肉を十字架につけなければならない。あなたは自分自身を十字架につけるにあたり、方法や手段を考案する必要はない。自分を苦しめる苦行には何の功績もなく、テストが訪れたときには、価値がないことが明らかになるであろう。わたしたちは心を神に明け渡さなければならない。それはこのお方がわたしたちを新たにし、聖化し、わたしたちをご自分の天の宮にふさわしいものとすることがおできになるためである。わたしたちは特別な時を待ってはならない。そうではなく、今日、罪の僕となることを拒んで、自らを神にお捧げしなさい。あなたは自分自身の力でほんの一時でも罪を振り払うことができると思うであろうか。それはできない。

イエスは罪深い肉の様をご自分に負われたとき、罪人として取り扱われた。それは罪人が義なる者として取り扱われることができるためであった。御父はキリストを信じるわたしたちを、ご自分のひとり子を愛されるように、愛してくださる。こうして信仰によって、わたしたちはキリストの義をつかむことができ、救い主はわたしたちをあらゆる罪から救われるのである。改心した魂はキリストが憎まれるものを憎み、キリストが愛されるものを愛する。このお方はご自分の死と苦しみによって、あなたが罪から清められるための備えをなされたのではなかったか。あなたはイエスの血をとって、それを信仰によって自分の心に塗らなければならない。なぜなら、それだけがあなたを雪よりも白くすることができるからである。しかし、あなたは言う。「わたしのすべての偶像を明け渡すことは、わたしの心を砕きます」。これこそ必要とされていることである。すべてを神に明け渡すことによって、あなたは岩の上に落ちて砕かれなければならない。遅らせることなく、このお方のためにすべてを明け渡しなさい。なぜなら、砕かれないかぎり、あなたに価値はないからである。

なぜ、これ以上長く待つのか。なぜ、神をみ言葉どおりに信じて、「わたしは自分自身をあなたにお捧げします。これがわたしにできるすべてです」と言わないのか。……

イエスはあなたにあるすべてを欲しておられる。このお方はあなたの魂のために無限の代価を支払われた。あなたが持っているもの、あなたの存在そのものはこのお方に属する。神があなたを助け、見て生きることができるように。キリストはもうまもなくおいでになる。このお方は苦しみのうちにわたしたちの兄弟となられた。そして、わたしたちがまもなくこのお方のまことの御姿を見るという希望は、なんという喜びをもたらすことであろう!わたしたちはここでもう少しの間苦しむであろうが、それから永遠の幸福に入るのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1892 年8月8日)

## 「答えられた疑問」(VIII)

#### A・C・サス執筆

#### 疑問 No.19

14万4千人は、何百万といる安息日遵守者に比較して、非常に少ない人数です。神は、ほんの限られた数の人々だけを救い、他の人を滅ぼされるのですか。

#### 答え

安息日遵守者は、今日何百万と数えられています。これこそ、およそセブンスデー・アドベンチスト教会がもはや144,000人の印する働きについて、もともとの立場を教えない理由です。なぜなら、600万人の教会員がいるからです。彼らは144,000人が象徴的な数だと主張します。

もしわたしたちがイスラエルの子らの経験を考えるなら、多大な数の人々がエジプトを去りました。20歳以上の戦える男の人の数で、603,550人(民数記 2:32)でした。この人数の中から、わずか2人だけが約束された地に入ったのです(民数記 32:11, 12)。

同じ割合で見てみますと、もし 600,000 人からわずか 2 人だけが地上のカナンに入ったとしたら、6,000,000 人からは 20 人だけが天のカナンに入ることになります。しかし、わたしたちは 20 人以上の人が聖地に入るようになることを神に感謝します。14 万 4 千人の人々は生ける神の印 (安息日) をもって印され、彼らは天へと移されるのです。

このような信徒たちが印される条件から見ると、何百万もの人が印される という展望は持てません。預言の霊は、なぜ多くの人々が印されないかを述 べています。

「多くの人々は神の戒めを守らず、義の実を結ばないために神の印を受けないのである。」(パイプル・コメンタリ [E.G. ホワイトコメント ]7 巻 970)

「クリスチャンだと公言する大多数は、神の日に苦い失望にあうことになる。彼らは自分たちの額に生ける神の印を受けていないのである。」(パイプル・コメンタリ [E.G. ホワイトコメント ]7 巻 970)

「すべての人々は、様々な分野における神のみ事業に深い関心を示すこと を要求される。そして、だれが生ける神の印を受ける価値があるかを調べる ために、厳密で予期しない諸々のテストが彼らにのしかかることになる。」(教 会への証5巻382)

「今こそ、神の律法がわれわれの思いと額にかくされ、心の中に書き記されなければならない時である。主は、心が世の思い煩いに満たされることの危険をわたしに示された。……。わたしはこうしたことのなかに大きな危険を見た。もしわれわれの心が他のことで満ちているならば、現代の真理は心からしめ出されて、額には生ける神の印を押す場所がない。」(初代文集 129, 130)

「自分たちの額に無限の神の印がある人々は、世とその魅力を永遠の関心時に従属するものとみなす。」(レピュー・アンド・ヘラルド 1897 年 7 月 13 日)

「しかし、民が昔のイスラエルのように不従順で、感謝せず、聖くないために、すべての人が最後の憐れみのメッセージを大いなる声で聞くことができるように、時が延ばされている。主の働きは妨げられてきた。印する時は遅らされてきた。多くの人々はまだ真理を聞いていない。しかし主は、彼らに聞いて改心する機会をお与えになり、神の大いなる働きが前進するのである。」(原稿リース15巻293)

「神はこのような働き人を通して、ご自分の恵みの力を表される。このお方のしもべたちは、生ける神の印によって世から区別されなければならない。彼らの言葉と彼らの行いは、彼らが神と共に働く共労者であることを明らかにしなければならない。」(パイプル・コメンタリ [E.G. ホワイトコメント ]7 巻 969)

「御霊の聖化は、神の印を持つ人々と偽の休息日を守る人々の間の相違を際立たせる。」(パイプル・コメンタリ [E.G. ホワイトコメント ]7 巻 980)

安息日を守ると公言する人々でさえも、多くの人々は印されません。

「自分自身の霊的な退廃について深い悲しみを感じることも、他の人々の罪を嘆くこともしない人々は、神の印を受けることなく取り残される。」(教会への証5巻211)

「安息日を守ると公言するすべての人が印を受けるのではない。真理を他の人々に教える人々の間でさえ、多くの人が自分の額に神の印を受けないであろう。彼らは真理の光を持ち、彼らは自分たちの主人のみ旨を知り、彼らはわたしたちの信仰のすべての点を理解していたが、それに見合う行いがなかったのである。」(教会への証5巻213,214)

「わたしたちのうち一人として、その品性にしみやしわやそのたぐいのものがある間は、神の印を受けることは決してない。」(教会への証5巻214)

#### 疑問 No.20

144,000人に含まれようと、含まれまいと問題ではありません。救われることが重要なのです。

#### 答え

たしかに、144,000人に含まれずに、救われる人々は多くあります。彼らは、アダムから 1844年までの安息日遵守者と日曜遵守者からなる「数えきれないほどの大ぜいの群衆」のうちに見出されます。そしてまた 1844年から終りの時、すなわち最後のテストの直前までには、144,000人に含まれていない多くの人々が救われます。それは、安息日の真理を知る機会がなく、あるいは正直にこの問題に関わることが理解できなかったけれども、自分たちの知っている光に対しては自分自身の教会で忠実であった人々です。次の例を考えてみてください。

「過去においては、聖書の安息日を守っていると信じて、日曜日を守ってきたキリスト者たちがいた。また、日曜日は神が定められた安息日であると心から信じている真のキリスト者たちが、今も各教会におり、ローマ・カトリック教会も例外ではない。神は彼らの真剣な心と神の前での誠実さを受け入れられる。」(各時代の大争闘下巻 170,171)

「ついにウィリアム・ミラーは、天からの光に反対する声をあげた。……モーセは、約束の国に入ろうとする時に誤りに陥った。そのように、ウィリアム・ミラーもまた、彼が間もなく天のカナンに入ろうとする時に誤りに陥って、真理に反する影響を及ぼした。他の人々が彼に、そうするように仕向けたのである。他の人々がその責任を負わなければならない。しかし、天使たちが、この神のしもべの尊い遺体を守っている。そして彼は、最後のラッパが鳴るときに出てくるのである。」(初代文集 418,419)

しかしながら、はっきりと理解されるべきことは、第三天使のメッセージの下で、自分の身に生ける神の印を持つ民がいるということです。もし、わたしたちが自分の額に生ける神の印があるならば、わたしたちは悩みの時にかくまわれます。もしなければ、わたしたちは滅ぼされます。下記の証の書によれば、中間ということはありません。

「わたしたち自身の一連の行動が、生ける神の印を受けるか、あるいは滅びの武器によって倒されるかどうかを決定する。」(教会への証5巻212)

「今一人びとりによってなされるべき重大な決断とは、自分が獣の刻印とその像を受けるのか、あるいは生けるまことの神の印を受けるのかということである。」(パイプル・コメンクリ [E.G. ホワイトコメント ]7 巻 977)

「すべての人の裁きにおいて、わたしたちは獣の刻印とその像を受けるのか、あるいは生ける神の印を受けるのかという重大な決断がなされなければならない。」(教会への証6巻130)

「この(ダニエル 12:1の)悩みの時が来るとき、すべての人の判決が決定する。

もはや恩恵期間はなく、もはや悔い改めない人々への憐れみはない。生ける神の印は、神の民の上に押されているのである。」(教会への証5巻213)

大争闘の終わり、恩恵期間が閉じる直前には、地上にただ二種類の人々しかいません。生ける神の印を受けている人々か、もしくは獣の刻印を受けている人々です。第三天使のメッセージの下では、印されているか一もし印をされているなら、144,000人の一員です一もしくは、救われないかのいずれかなのです。次の証の書について考えて下さい。

「この争いの結果、全キリスト教世界は二種類の人々に分けられる。すなわち、神の戒めを守り、イエスの信仰を持つ者と、獣とその像とを拝み、その刻印を受ける者とである。」(各時代の大争闘下巻172)

「そこには二種類の人々しかありえない。それぞれのグループは、はっきりと印を押される。すなわち、生ける神の印か、もしくは獣とその像の刻印のいずれかである。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1900 年 1 月 30 日)

「もしわたしたちが、自分たちの額かあるいは自分たちの手に、この〔獣の〕 刻印を受けるとすれば、不従順な者たちに対する裁きの宣告がわたしたちに 下る。しかし、生ける神の印は、良心的に主の安息日を守る人々の上に押さ れる。」()ピュー・アンド・ヘラルド 1897 年 7 月 13 日)

#### 思想の糧

「蠟が押印のかたをとるように、魂も神の御霊の押印のかたを取り、キリストのみかたちをとどめなければならない。」(信仰によってわたしは生きる287)

「主は、教会組織に結びついても、神の印を自分に受けるまでは、救われないという教訓を人に教えておられる。」(パイプル・コメンタリ [ E . G . ホワイトコメント ]7巻 969)

「御使が、罪と罪人から分離するすべての人の額に印を押し、滅びの御使が 老若共に徹底的に滅ぼすために後に続くのである。」(教会への証 5 巻 505)

「民に生ける神の印を受ける準備をさせるために、厳粛な警告のはっきりとした調子をもって終末のメッセージが伝えられなければならない。」(ローマ・リンダ・メッセージ 319)

「そして、わたしはかつてなかったほどの悩みの時を見た一イエスは、それがヤコブの悩みの時であり、わたしたちは神のみ声によってそこから救出されるとわたしにお告げになった。……そしてわたしは燃える雲がイエスの立っておられるところに来て、イエスが祭司の服を脱ぎ、王衣をまとわれて、雲の上に乗られるのを見た。その雲は、このお方を東の方へ連れて行き、そこでまず地上の聖徒たちに、人の子のしるしである小さな黒雲があらわれた。雲が

最も聖なる場所から東へと幾日もかけて過ぎていく時に、サタンの会堂は聖 徒たちの足元で拝した。」(デイ・スター 1846 年 3 月 14 日)

「わたしたちはあらゆる種類の堕落に反対して堅実に立ち、原則に対して 鋼のように忠実でなければならない。生ける神の印をおびた人々を獣の刻印 を持つ人々から区別するのは、じつにこの原則に対する堅実な固守である。」 (原稿リリース4巻76)

「御使たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで四方の風を引き留めることがおできになるのは、ただ神のみである。」(セクケッド・メッセージ 3 巻 415)

「神の恵みの新たにする力のメッセージはすべての国家と地方に伝えられ、真理が世界を取り巻くようになる。印されるものに数えられる人々の中には、あらゆる国民、部族、国語、民族から来た人々がいる。すべての国から、神の御座と小羊の前で立つ男女が集められ、『救は、御座にいますわれらの神と小羊からきたる』と叫ぶ(黙示録 7:10)。しかし、この働きが成し遂げられる前に、わたしたちはこの自分自身の国のうちで、聖霊の働きを自分の心に経験しなければならない。」(両親・教師・生徒たちへの勧告 532)

#### 引用参考文献

印する働き13章(103~107)

#### (46 ページの続き)

までにだれか傷ついて、悲しくて、あるいはさびしくて、だれか他の子供が造いているのを見たことがありますか?かりに、その子が前に自分に意地を整をした子だとしたら、あるいは、だれか他の子供たちにからかわれたり、薬がわれたりしている子だとしたら、どうでしょうか。もしかしたら、あなたはその人に親切にすることによって、自分の友達がいなくなるのではないかと心能でするかもしれません。しかし、ただ黄金律を思い出しましょう、「だから、荷事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」(マタイ7:12)。別の言葉で言えば、もし傷ついて、悲しく、さびしくて泣いているのがあなただとしたら、どのように扱ってほしいですか?だれかがあなたに親切にしてくれたら、とてもうれしいのではないですか?イエスは、「あなたも行って同じようにしなさい」と言われます。他の人々に親切にする方にはは、もでしているります。特に人が問題をかかえていたり、困っている場合は、なおさらです。よいサマリヤ人のようになりましょう。そしてよい隣人になることを楽しみましょう!

#### ピーナッツバタークッキー

#### 〔材料〕

はちみつ 3/4~1カップ

バニラ 小さじ 2塩 小さじ 3/4

ピーナッツバター 1 & 1/2 カップ

植物油1/4 カップ全粒粉1 カップ

オートミール(粉) 1カップ

#### [作り方]

オートミールをフードプロセッサーにかけて粉にします。

ボールにすべての材料を入れて、良く混ぜます。

大さじ2の大きさのボールを作り、オーブンシートの上に置き、フォークで平 らにします。

170 度で 20 分~30 分、きつね色になるまで焼きます。

アレンジ:レモンエッセンスを小さじ1/2ほど加えると、一味違った風味が楽しめます。

#### 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校:9:30-10:45(公開放送)

礼拝説教:11:00-12:00(公開放送)

午後の聖書研究:14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp



THEN

#### 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先:〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係 是非お申し込み下さい。

#### 書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全 に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



## 親切な隣人となる

わたしたちの隣人とは、わたしたちの助けを要するすべての人である。(キリストの実物教訓 353)

ルカ 10:25~37 には、有名な良いサマリヤ人の話があります。「するとそこへ、ある律法学者が現れ、イエスを試みようとして言った、『先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか』。彼に言われた、『律法にはなんと書いてあるか。あなたはどう読むか』。彼は答えて言った、『心をつくし、哲神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」。また、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」とあります』。彼に言われた、『あなたの答は正しい。そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得られる』。

すると被は自分の立場を弁護しようと思って、イエスに言った、『では、わたしの隣り人とはだれのことですか』。イエスが答えて言われた、『ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中、強盗どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り、傷を負わせ、準殺しにしたまま、逃げ去った。するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。皆同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を見ると、向こう側を通って行った。ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、首分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。翌日、デナリニつを取り出して宿屋の主人に手渡し、「この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います」と言った。この三人のうち、だれが強盗に襲われた人のになったと思うか』。彼が言った、『その人に該悲深い行いをした人です』。そこでイエスは言われた、『あなたも行って同じようにしなさい』。」